

平成18年7月豪雨 間人地区土砂災害に係る検証報告書



【発災直後の災害現場】



【対策工事が完成した災害現場】

平成20年3月
京丹後市

目 次

はじめに	1
Ⅰ 京丹後市の状況と対応	2
Ⅱ 課題と対応策	6
1 避難対策について	6
(1) 避難情報の発令	
(2) 開設する避難所と誘導體制	
(3) 避難所運営体制	
2 災害対応体制について	9
(1) 組織体制の強化	
3 情報の収集と伝達体制について	11
(1) 情報の伝達体制の確立	
4 ボランティア対応について	13
(1) 行政とボランティア団体との連携強化	
5 復旧対応について	15
6 地域の防災力について	16
(1) 地域の防災力の向上	
参考資料	
1 気象警報の発令状況	18
2 雨量の状況	18
3 土砂災害監視システムの状況	20
4 河川水位の状況	21
5 被害状況	22
6 復旧工事の概要（府現地説明資料）	24
7 間人地区土砂災害避難指示発令マニュアル	34
8 京丹後市 避難情報発令基準	35
9 防災マップ	44
10 丹後町間人土砂災害に伴う検証委員会報告（消防本部）	46

は じ め に

京丹後市では、平成18年7月15日から19日朝まで断続的に降り続けた梅雨前線による豪雨によって、19日午前4時頃に京丹後市間人地区において大規模な地すべりが発生し死者2名の犠牲者がでたほか、全壊家屋3棟、床下浸水12棟、道路・橋梁被害19箇所など甚大な災害が発生した。

これまで経験したことのない大きな被害を受ける中、市では、自衛隊、警察、消防関係者をはじめ多くのボランティアの皆さんの支援を得ながら、全力をあげて災害対応に取り組んできた。

また、間人地区土砂災害発生後、全庁組織が地域防災計画に基づく役割分担と相互協力のもと、一早く現地災害対策本部を設置して、24時間体制で臨機・柔軟に対応してきた。しかし、避難対象者の把握や情報伝達、避難のあり方等について、今後検討すべき課題が残ったことを教訓に、それらの対応策について検討を行ってきた。

更に、現地災害対策本部については、地すべり感知センサーの設置や応急対策工事の完了で被災状況も落ち着いてきたこともあり、8月14日で閉鎖し、それに代えて間人地区土砂災害対策室を丹後市民局内に設置し、引き続き災害対応業務を行った。

市民の安心・安全を確保し、災害に強いまちづくりを進めていくためには、土砂災害対策等の整備促進や福田川をはじめとする河川改修を図っていくとともに、災害対応体制の強化や避難体制の整備など、自助・共助・公助を推進し、行政と住民が一体となって防災対策を推進していく必要がある。

こうしたことから、平成18年7月豪雨による様々な経験を検証し、課題について整理・検討を行うとともに、その対応策をここに検証報告書としてとりまとめ、今後、地域防災計画の見直し等に反映していくこととする。

平成20年3月

京丹後市長 中 山 泰